

第2回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討市町会議の概要

日 時:平成29年10月11日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
場 所:本町分庁舎(漁信基ビル)702会議室

【第3回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議資料】

1. 伝承のあり方について

(1) 伝承施設等における展示・伝承内容の共通化と差別化

① 共通化

- ・震災の概要の紹介。
- ・県全体の災害について、どのような形で情報発信をするか。
- ・農地の除塩や地盤沈下など沿岸域での事象に関する共通事項の説明。
- ・震災遺構の連携と一体的な紹介。
- ・ゲートウェイ機能(仙台市, 石巻南浜復興祈念公園)。

② 差別化

- ・各市町の施設・遺構ごとの地域の思い。
- ・複合災害の痕跡、慰霊・追悼を行う場などの施設ごとの性格。
- ・現地再建の町の防災教育・防災対策。
- ・震災を学んでもらいながら復興事業への参加。企業のCSR活動とのタイアップ。
- ・民間資源の活用。
- ・復興まちづくりだけでなく、震災以前の町も紹介。
- ・震災遺構の貴重性のPR。

第2回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討市町会議の主な御意見

1. 伝承のあり方について

(2) 語り部の担い手の確保・育成・組織化

- ・民間主導の語り部ネットワークができ、育成活動もしている。民間で独自に進んでおり、県全体の統一的な語り部は難しい。
- ・自発的に活動を始めて、取組が進んできており、行政との関わりが薄い。
- ・語り部の育成・確保のほか、高齢化も課題。
- ・たくさんの方ができる形態を目指し、リスト化から着手。
- ・担い手確保の代替・補完としてIOT活用も検討。
- ・県で共通の多言語動画の作成を希望。

(3) アーカイブ

- ・「東日本大震災アーカイブみやぎ」がより分かりやすく、使いやすいものになれば、全面的に統合する選択肢もある。

2. 連携・ネットワーク化について

- ・現在の伝承施設等の管理は、直営、業務委託。
- ・将来的には指定管理者も検討しているが、請け負ってくれる適切な団体が無い。
- ・現在の企画展示も、将来的にはアイデアが尽きてしまう恐れがある。
- ・国営追悼祈念施設が石巻市にできるが、石巻市のモノだけを展示するのではない。